

2018年9月26日
東北公益文科大学

東北公益文科大学教員の出版について

『ノードとしての青年期』

本学、経営コース、講師 渡辺伸子が分担執筆した「ノードとしての青年期」高坂康雅編が出版されました。

- ◇ 書籍名：『ノードとしての青年期』
- ◇ 編者：高坂康雅 編
- ◇ 分担執筆者：渡辺伸子（東北公益文科大学講師）
- ◇ 発行所：株式会社ナカニシヤ出版
- ◇ 発行日：2018年3月31日
- ◇ （はじめにより）

青年期とは、様々な学問・領域・分野が階層的にとりくむことができる（あるいは、取り組むべき）時期であり、それらが結びつくことで、より一層青年期や青年を理解することができると思う。いわば、青年期は様々な学問・領域・分野の「ノード（結節点）」なのである。

本書では、青年期が多様な領域などの「ノード（結節点）」であることを改めて強く認識してもらい、青年心理学を含む青年研究を行っている研究者だけでなく、近隣領域の研究者が青年研究・青年期研究に携わったり参入するきっかけになることを意図して企画されたものである。

お問い合わせ
広報担当 池田
電話) 0234-41-1119